

第3回よさのみらい会議を開催

▶▶ 前回の議論から一歩前へ

11月9日、元気館において、「第3回よさのみらい会議」を開催。前回に続き、「しごとづくり」「くらしづくり」「ひとづくり」の3つのテーマで、まちの10年後の未来について、これまでの対話を踏まえ「10年後の与謝野町をどう描くか」をより具体的に考えました。今月号では、その概要をお伝えします。

問 企画財政課 ☎ 43-9015

しごとづくり分科会

— 地域のしごとを知り、
つながり、応援できるまちへ —



地 域の産業や事業所をどのように広く知ってもらうかを焦点に、情報発信の方法や、広報紙・SNSなどを活用したPRのアイデアが出されました。参加者からカフェ併設の工場見学の事例が紹介され、個人ができることとして、「与謝野町内の新しいお店に訪れよう」という意見も出されました。

住民が地域の産業や事業所の新しい挑戦を応援し、働く人が誇りを持てる環境や文化を育てていくことが、これからの“しごとづくり”につながると確認しました。

主な意見

- 町のホームページをもっと見やすく
- 町内の企業情報を1ヵ所で見られるようにしてほしい
- 新しい店や取り組みを積極的に利用したり、参加したりして応援する

くらしづくり分科会

— 利用しやすい行政サービス
で安心して暮らせるまちへ —



公 共施設のあり方を中心に対話を行い、役場庁舎は「ICT※を活用しスモールに」「スモールになった庁舎を、サポートできる地域の拠点や仕組みづくりが大切」などの方向性を共有し、「自分たちにできること」「今からできること」を話し合いました。

その他の公共施設については、「集約などを受け入れることも必要だが、人が集まる施設は充実させる」「跡地には企業誘致が望ましいが、そのためにまちの魅力の発信・発見が必要」との声がありました。

主な意見

- ICT活用で行政サービスを一律にし、庁舎分散による不便を解消するべき
- デジタルが苦手な人を支える仕組みが必要
- 住民同士での“すき間を埋める”助け合い

ひとづくり分科会

— 多様な人がつながり、支え合
うやさしいまちへ —



家 庭や職場とは別に、気軽に立ち寄れる“第3の場所”を作ることの大切さのほか、多様な人が交流し、学び合える場を広げていくために、ICT活用や柔軟な施設運用の工夫が必要との意見がありました。また、地域の中で自然に“寄り添える人”がいることが安心につながるとの声もありました。

障がいや性の多様性、世代や立場の違いを超えて、誰もが安心して暮らせるために、心のバリアを取り除き、誰もが意見を言い合える“オープンな地域”をめざすことが、共生社会への第一歩だと確認しました。

主な意見

- 当事者の声を直接聞くことが大切
- 公民館などで気軽に話せたり集まれたりできる機会を増やしたい
- 「寄り添う人」「つなぐ人」を育てる仕組みが必要

※ Information and Communication Technology (情報通信技術) の略